

倉本一平
の
歴史レポート

本能寺の変 その1



光秀肖像画



瑞浪市八幡神社 光秀像

NHK 大河ドラマ「麒麟が来る」は主人公の明智光秀が土岐氏にゆかりがあることから、毎週欠かさず見えています。

最終回は光秀が織田信長、信忠親子を討伐した本能寺の変が放送される予定ですが、どんな結末になるか興味津々です。

さて、光秀が本能寺の変の後、いとも簡単に秀吉に滅ぼされたのは何故だったのでしょうか。それは光秀が本能寺襲撃で信長、信忠の首級を揚げられず、焼失した本能寺の中から亡骸の一部すら発見出来なかったからだと思います。

本能寺の変を知った秀吉が、備中高松城から2万もの兵を連れて10日余りで京都山崎まで行軍し、光秀軍を滅ぼしましたが、この戦いを前に秀吉は光秀の同盟者である細川藤孝、筒井順慶、高山右近、中川秀直、池田恒興などに「上様並びに殿様（信長、信忠）何れも御別儀（支障）なく御切り抜けされ候。膳所が崎（大津市）へ御退きなされ候」との虚報を記した書状を送りつけ、光秀軍に加わらないよう工作しました。

その結果、筒井や中川らは信長が生きていた場合の報復を恐れ、逆に軍勢2万余りが秀吉軍に味方して光秀軍に襲い掛りました。

光秀の命運はここで尽きたわけですが、秀吉が信長存命というデマを風潮出来たのは、本能寺から本能寺に隣接した南蛮寺に抜け道（地下道）があることを知っていたからです。

秀吉は、信長はそこに入って切腹自害したと確信したと思います。

[テキストを入力]

作家の加藤廣さんは『信長の棺』で、本能寺からキリスト教イエズス会が建立した南蛮寺への抜け道を書いており、その抜け道は信長の指示で秀吉の家来、前野将左衛門長康が掘ったことになっています。

前野将左衛門長康は、僕の祖先でもあります。

この抜け道の話は、畿内では昔からの民間伝承となっています。

私の小学生時代は四日市市でしたが、この抜け道については友達と話した記憶がありません。

小学校の修学旅行は奈良、京都で、祇園の入り口付近の『本能寺の変』が起こった旧本能寺跡脇の京都観光ホテルに泊まりました。

その夜中、イオン社長の岡田元也君、森蘭丸の子孫の森晃史君、秀吉ゆかりの丹波の一族の末裔、木ノ下雅俊君、友人の北中和久君と誰ともいわず皆で集まって、本能寺の抜け道の話をしました。

その時は何とも思わなかったですが、本当に偶然というか、奇跡の様な出来事でした。

本能寺の抜け道を掘った前野将左衛門長康の子孫の僕、信長と共に本能寺で亡くなった森蘭丸の子孫の森晃史君、丹波一族の末裔の木ノ下君がおり、その抜け穴の話は、僕たちがタイムスリップしてあたかも本能寺の変に遭遇したかのような、真に迫ったものでした。

奇妙な体験でしたが今思えば、僕達の先祖が本能寺の変にゆかりの僕達を集めて、信長や森蘭丸、本能寺の変で亡くなった方々の供養をさせたのではないかと思います。

歴史はロマンです。

戦国時代の出来事を記した古文書や小説を読みながら、コロナ禍の一人酒を楽しんでいる今日この頃ですが、何とんでも NHK 大河ドラマ「麒麟が来る」の最終回のストーリーが気になります。

次回は、何故光秀が信長を襲撃したかを考えてみたいと思います。

よろしくお願いします。

2021年2月

倉本一平：瑞浪高校 1970 年卒